

3. 「コミュニティ・プラットフォーム」 構築の実践的取り組み 関連資料

「コミュニティ・プラットフォーム」構築の実践的取り組み 関連資料

【資料1】事務局名簿

大里 政由	アオヴェルディ株式会社
木村 光一	桐生地域情報ネットワーク 理事
森島 愛一郎	桐生地域情報ネットワーク 理事
小林 隆子	桐生地域情報ネットワーク 事務局
吉田 薫	桐生地域情報ネットワーク 事務局
笹川 八洋	桐生地域情報ネットワーク 事務局
高沢 朋子	桐生地域情報ネットワーク 事務局
増田 久香	桐生地域情報ネットワーク 事務局
荻原 由加	桐生地域情報ネットワーク 事務局
林 幸男	桐生映画塾 幹事
安楽 太介	群馬大学工学部生物化学工学科
川越 祐治	群馬大学工学部情報工学科
小島 可奈子	白鷗大学法学部法律学科
佐々木 祐治	群馬大学工学部生物科学工学科
相馬 弘往	群馬大学工学部情報工学科
辻 繭子	群馬大学教育学部教育学科
林 康平	群馬大学工学部情報工学科
森 美有紀	群馬大学大学院社会情報学研究所
吉沢 高幸	群馬大学工学部情報工学科

【資料2】聞き取り調査の対象者一覧

氏名	取材テーマ	職種・役職名
高松 靖郎	紋切りについて	高松紋切り所・社長 紋切業
山田 耕治	桐生の町と子供達について	「大風呂敷」店主
森山 亨	桐生の織物と歴史について	元桐生地場産業振興センター専務理事
大西 康之	一店一作家運動とまちづくり	一店一作家運動の主宰者
奥野 梅夫	桐生引き染めぼかし	伝統工芸士 桐生引き染めぼかし
後藤 誠三	後藤織物と桐生の歴史	統工芸士 桐生織 後藤グループ・専務
近藤 幸子	着物古着ショップと高齢者	着物古着ショップ「睡蓮」店主

【資料3】インターネット勉強会・講習項目

項目名	時間
PCの名称と機能説明	1時間
インターネット概要	1時間
マウス・キーボード基本操作	1時間
タイピング練習	3時間
インターネット閲覧方法	2時間
電子メールの使い方	3時間
インターネット検索方法	2時間
MSワードの使い方	3時間
フォトショップの使い方	3時間
ホームページの作成	3時間

【資料4】宮前情報サロン・講習会場の設備

品名	数量	内容
町内無線LANシステム ・ホスト局装置 ・カード型無線LAN ・USB型無線LAN装置	一式	サロンより半径70mの町内どこでも11Mの無線LANが利用可能とする
デスクトップPC ノート型PC	5台 1台	Windows2000パソコン、すべてにネットワーク環境を整備
ネットワークスキャナー ネットワークプリンター	1台 1台	提供資料のデジタル保存用、印刷用
ネットワーク環境	1式	OCNエコノミーを敷設し、町内の会員PCと、サロンの全PCがインターネットに常時接続可能とした。
Photoshop Illustrator Dream Weaver Fireworks MS Office キーボードトレーナー	各1	初心者講習会用のMSワードと、コミュニティ・アーカイブズ用の資料編集ソフトを準備した。

【資料5】宮前情報サロンの運用体勢

役割	人数	役割・内容
ネットワーク管理者	1名	事務局のネットワーク管理者
勉強会講師	9名	常時2名を配置した 大学生（7名）、事務局（2名）
事務局	2名	サロン担当者
取材班	4名	コミュニティー・アーカイブズの為、高齢者を取材するスタッフ







【資料6】スキル別受講内容

参加者レベル	受講内容
超初級	パソコンとアプリケーションの起動方法 ファイルの作成と保存方法 タイピングソフトを使用したキーボードの練習 教科書を使用した文章作成練習（メモ帳・Word 使用）
初級	ファイルの作成と保存方法 タイピングソフトを使用したキーボードの練習 教科書を使用した文章作成練習（メモ帳・Word 使用） インターネット閲覧・検索
中級	Excel でのカレンダー作成 年賀状の作成
上級	HPの作成、画像処理、出版

【資料7】 イベントにおけるフリートーク・発言者

氏名	内容
武藤 和夫	八丁撚糸機の復元の話 西陣お召しと桐生お召し・繻子との関連についての話
仲谷 トク子	自宅近くにあった水車の思い出を、自作の歌「春の水車」として朗読
藤井 義雄	「上げより」「下撚り」、ど箱水車、上げ下げ水車についての発言 昭和十三年桐生撚糸賃業組合の話 新宿の水車地図の話 繊維工業試験場で八丁撚糸再現の話
山沢 一元	八丁撚糸で撚った、生糸・人絹糸の現場での話を詳細に発言
知村 純雄	「撚糸業者組合規約並び賃金表」について発言
森村 秀生	森村氏が発見した「田村梶子幕府答礼之長歌」の説明
高橋 洋成	河原井源次氏提供の「水車営業免許鑑札」（明治九年）の話
小坂 克信	東京・三鷹市の有形民族文化財シングルマについての発言
亀田 光三	桐生の水車関連の発言へ、コメントを入れる
大里 仁一	田村梶子についての歴史的考察と、渡辺崋山との交流について

【資料8】アーカイブされたデータの一部

	
<p>明治時代の新宿村と水車</p>	<p>藤井氏の撚糸工場跡の八丁撚糸</p>
	
<p>昭和20年代・宮前町の祇園祭風景</p>	<p>宮前町1丁目インターネット勉強会参加者</p>
	
<p>森秀織物・八丁撚糸機写真</p>	<p>桐生市本町5丁目（大正時代）</p>

※今回のプロジェクトで写真、取材撮影と提供画像を含めるとデータは数百点に及ぶ

【資料9】聞き取り調査についての感想（NPO事務局：荻原由加）



桐生プロジェクトの聞き取り調査を通じ、ほんの少しではあるが、私たち取材スタッフは、今まで自分たちが感じた事の無い、現在の桐生の姿に直接触れることになった。私自身についても桐生在住ではあるが、桐生に生きる人々に直接話を伺いに行く、という機会などそれまで持ったことなど無く、戸惑いがあった。それも「桐生」という地域の中において、単なる生活者というのではなく、「桐生」の持つ個性に密接に関わり、明確な目的意識の中での魅力的な展開を押し進める方々を対象にしてのものなのだ。

取材では、7名の方々にお話を伺った。桐生地域の特性である「織物」をキーワードにして取材するという事で、桐生の歴史に見識の深い方、実際に織物の行程に関わる職人さん、桐生で活動する作家を支えている方など、年齢も30代から70代まで、その個性は様々だった。一見すると共通項など持たないと思えるが、一点だけは共通している。それは「桐生に対する、他の誰とも全く異なる関わり方」という、その人の在り方そのものだ。

それは言葉にすれば簡単で、あたり前のことだけれど、私達取材スタッフの中には、「実体験」という形で桐生の姿を映す強い個性として、印象に残った。その意味では、20代のスタッフで構成された私たちが直接、桐生の織物を中心とした伝統文化や歴史を聞いてまわるとは冒険とも言え、刺激的だった。そして、あたらしい意識のようなものが大きく二つ生まれた。

一つ目は、取材前に事務スタッフとして出席したプロジェクト会議の中で、「桐生は高齢化が進んでおり、今後の高齢化社会においては、モデル地域としてもってこいだ」という発言を聞いたのを覚えている。7件の取材後、その意味の取り方を微妙に変わった。私の持つ「高齢」という言葉そのものの持つ印象が変わったからだ。

それまでは高齢者というと、世代の後方に時間の流れとともに仕方なく追いやられてしまった、という乾いたイメージがあった。けれど取材の中で、その取材させて頂いた方の感性の深さに驚いてしまった。高齢であるほど、血筋を含めた桐生に対する深い想いや、職人としてやって来たことでしか得ることのできない動かし難いものがそこにあった。

それは本当に重いものだった。私自身は自分が成り立ったそれまでの歴史を、足を止めて考えたことなどほとんど無いに等しかった。何かの弾みで生まれてしまった、というようなものだ。そして自分の生活のための環境を作ることを最優先事項として、細心の注意を払って生活してきた。

自分の描く理想や夢、快適さを求めて、走ったり歩いたりしている毎日の積み重ね。だからこそ、いわゆる高齢者に当たる方々の経験した時間の重さや、人が作ってきた歴史があってはじめて自分は存在している、それはすばらしいことなのだという語りかけに、私はひっかかりを感じた。

二つ目は、取材の主旨であった「アナログなものとしての個性ある桐生の伝統文化を、デジタル化して後世に残す」という作業は、取材前には簡単なフレーズに聞こえた。しかし様々な人々に会うことで、桐生は「織物」という特殊性を持ち、様々なことが絡み合っ綴られてきた歴史があるのだと改めて知った。その事実を記録として残すことは、その歴史の積み上がり方を考えると、とてつもなく大きなエネルギーを必要とし、継続の必要な作業だと考えるようになった。

「物事はいつも原始的なものからしか始まらない」という言葉を聞いたことがあるが、まさに取材を通じて知ったことは、その言葉そのものだ。

自分の快適な環境だけを追っている人々が、小さなきっかけで尊敬できる高齢者に出会い、傷が付き、自分の内面が感化され、あたらしい意識を持つこと。と、これは理想のように聞こえるが、実際に、短い間に自分たちの中に起きたことだ。そして、ただ付き合う、話を聞きに行くという関係はそれはそれで楽しい。

けれど、育った時代背景の違う人同士の交流の中ででは、自分がどうして高齢者の話を聞きたいのか、付き合いたいのかという個人の核を持てれば、より相手を理解できる“ゆとり”が出来、もっと良い関係を作れるのではと感じた。

時代背景の異なる者同士で、実体験としての「あったかさ」を感じる。理論は置いて、実際に空気を共有すること。本当に小さな対一の関係。結局そこからしか、魅力的な展開は始まらないと思えた本当に貴重な時間だった。

【資料10】報道関係資料

日 時	メディア名
H13年6月25日	桐生タイムス記事
H13年6月27日	桐生タイムス記事
H13年9月29日	桐生タイムス記事
H13年9月29日	桐生タイムス記事
H13年9月29日	桐生タイムス記事
H13年10月10日	NHK群馬インタビュー（塩崎泰雄出演）
H13年10月15日	桐生タイムス記事
H13年10月17日	桐生タイムス記事
H13年10月29日	桐生ケーブルテレビニュース（長田克比古出演）
H13年11月12日	桐生タイムス記事

【資料11】招待演者・取材対象者・資料提供者

高橋 和夫	繊維産業総合コーディネーター Project-K 第2回会議にて、桐生の繊維産業についての講演。 群馬県太田市在住
峯岸 康治	水車に関する資料提供者 桐生老人クラブ連合会・会長長く市議会議員を務める 「明日への遺産」（平成2年）老人クラブ連合編集 桐生市梅田町在住
亀田 光三	水車に関する資料提供者 桐生文化史談会副会長・元桐生工業高校教諭 産業考古学会評議員・両毛産業遺産研究会代表 桐生市小曾根町在住
藤井 義雄	水車に関する資料提供者 八丁撚糸機に関する資料を多数提供された 桐生市小曾根町在住
武藤 圭介	撚糸に関する資料提供者 3代続いた武藤撚糸当主 50年間写真を撮り続け、『桐生御召』の全行程をカラー写真で製作、資料としても提供された 桐生市東在住

森村 秀生	水車に関する資料提供者 渡辺崋山と縁の深い桐生出身の田村梶子の『田村梶子幕府答礼之長歌』を所有、1700年後半当時の桐生の水車と機織りや女性の記述がある 桐生市元宿町在住
延命 立雄	桐生市の歴史に関する資料提供者 桐生小型映画研究会・桐生市教育委員会など製作の『桐生市政 50 周年記念映画』『森喜作・なばよ出てくれ』『八木節の源流』などのビデオを提供された 桐生市仲町在住
森島 純男	桐生織物組合に関する資料提供者 織物参考館“紫“館長 桐生市東在住
木村 佐代子	桐生の歴史に関する資料提供者 昭和 20 年当時の宮前町祇園祭り、敬老会の写真を提供された 桐生市宮前町在住
荻野 一夫	水車に関する資料提供者 4 代目『意匠荻野』当主 ご自宅の襖裏張りから明治 27 年当時の水車報告書・機業報告書・漁業報告書など 32 点の資料を提供された 桐生市境野町在住
大里 仁一	八丁燃糸を中心とした桐生の歴史に関する資料提供者 八丁燃糸の歴史、往時の歴史的背景などの情報提供 桐生史談会・桐生史編纂委員 桐生市梅田町在住
野間 信子	水車に関する資料提供者 講談社創始者：野間清次氏の直系 講談社より『野間清次伝』（昭和 15 年作）を委譲 桐生の上げ下げ水車の稼働場面を含んだ貴重な映像を提供された 桐生市梅田町在住
川本 有希子	水車に関する資料提供者 電子メールにて水車に関する情報の提供をされた
新居 ツヤ	水車に関する資料提供者 現在の商工会議所の水路脇で、長く飲食店を経営 昔の風情や水車の写真など資料提供された 桐生市錦町在住

須田 信宏	水車に関する資料提供者 『桐生エンジニアリング』社長 須田米吉氏（お父様）の代は眼鏡橋上流で撚糸業をされていた 眼鏡橋・上げ下げ水車・富士紡の杉並木や発電所の写真を提供された 桐生市織姫町在住
遠坂 仲司	水車に関する資料提供者 遠伊織物4代目社長 蔵には当時の水車の部品や写真がたくさん保存されており、大正時代の絵地図等、貴重な織物に関する資料が豊富に残されている 桐生市新宿在住
桐生市郷土資料展示ホール	新宿村・水車の廻る写真など数点資料の提供
桐生市図書館	キャサリン台風の調査報告書
斎藤 利江	桐生に関する資料提供者 アサヒ堂会長 多くの写真集を出版され、桐生の川や織物の原風景を資料として提供された 桐生市元宿町在住
武藤 和夫	水車に関する情報提供者 水車イベントにて、八丁撚糸機についてお話を頂き、 武藤さんが開いている「織塾」には水路がひいてありいつでも水車が廻せる状況 桐生市梅田町在住
仲矢 トク子	水車に関する情報提供者 水車イベントにて、水車の様子を描いた自作の詩を朗読して頂いた 桐生市川内町在住
山沢 一元	撚糸に関する情報提供者 水車イベントにて、撚糸における「上げ撚り」について情報を提供された 桐生市新宿在住
知村 純雄	水車と撚糸に関する情報提供者 水車イベントにて、水車と撚糸に関して情報を提供された 3代にわたり撚糸業に従事、「下撚り」をおこなっている 桐生市三吉町在住
兵藤 保吉	織物に関する情報提供者 水車イベントのアンケート調査にて、桐生川で織物を洗う風景についてコメントを頂いた 桐生市堤町在住

長沢 和江	水車に関する情報提供者 水車イベントのアンケート調査にて、かつて新宿で廻っていた水車についてのコメントを頂いた 桐生市天神町在住
河原井 源次	水車に関する資料提供者 水車イベントにて、水車を立てるための免許「水車営業免許鑑札」の資料提供をされた 河原井ホンダ会長
小坂 克信	水車に関する情報提供者 水車イベントにて、水車の歯車の種類等について情報提供された 三鷹市教育委員会 三鷹の水車の歴史研究員
山田 耕司	聞き取り調査対象者 ・聞き取り調査を開始するにあたり、面白い切り口で桐生地域の活性化のヒントを得るため調査を実施 桐生第一回文化市実行委員長 一郷一学講師 「大風呂敷」店主 桐生市在住
高松 靖郎	聞き取り調査対象者 ・織物の工程の一つである「紋切」に携わる職人さんを通じ、桐生地域における織物の現状を調査するため実施 昭和 17 年生まれ 桐生市宮前町にて紋切業に従事されている 桐生市宮前町在住
森山 亨	聞き取り調査対象者 ・桐生地域の多世代交流について考えていくことに先立ち、桐生そのものの歴史、文化について認識を深めておくため調査を実施 昭和 6 年 桐生市生まれ 森山芳平氏の孫元桐生地域地場産業振興センター専務 経済産業省・国土交通省など多くの委員会に所属 桐生の産業、特に織物の再興について見識が高い 桐生市東在住

<p>奥野 梅夫</p>	<p>聞き取り調査対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桐生地域で開業している染めの職人さんを通じ、伝統の継承を含めた職人の現状知るため調査を実施 <p>大正 14 年 桐生市生まれ 伝統工芸士 桐生引き染ぼかし 昭和 10 年京都九条から師匠が桐生に移り開業 桐生広沢町在住</p>
<p>後藤 誠三</p>	<p>聞き取り調査対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桐生地域における織物業界の現状と、企業から見た織物業のあり方について知るため調査を実施 <p>昭和 25 年生 桐生市生まれ 伝統工芸士 桐生織 後藤グループ 専務理事 桐生市東在住</p>
<p>大西 康之</p>	<p>聞き取り調査対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桐生地域で個性的な活動をされていることから、桐生の活性化についてのヒントを得るため調査を実施 <p>昭和 18 年生まれ 元桐生市議、 県礼連会長 ファッションタウン桐生推進協議会 産業活性化委員会副委員長 桐生市の商店街に一店一作家一工場運動を展開 桐生市川内町在住</p>
<p>近藤幸子</p>	<p>聞き取り調査対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織物業界で注目株である着物の古着屋さんを通じ、着物に対する人々の認識状況や今後のお店の展開について知るため調査を実施 <p>茨城県生まれ 着物古着ショップ「睡蓮」店主</p>